

東京税理士会日野支部長賞

部活動ができることに感謝

多摩市立多摩中学校

三学年 横内 結彩

私はテニス部に入っています。練習は厳しく、土曜も毎週練習があります。

父に「勉強頑張らないとだから練習参加する頻度減らしてもいい？」と相談しました。父は「減らしたいなら、いいよ。だけど…」と言い、次の話をしてくれました。

「以前、父さんが働いていた会社の野球部は都市対抗の常連で、プロ野球選手も輩出したんだ。でも不景気の影響で休部。野球部の運営にはすごく費用がかかるからね。練習場も売りに出たんだ。休部になってからは野球をあきらめ一般の社員として会社に残った者、新しいチームに移った者、受け入れ先が見つからずに失業状態にいる者、みんな人生が変わったんだ」と寂しそうに話しました。

「多摩中の部活動は義務教育の一環だから、税金がまかなってくれるんだ。だからお金のことを心配しないで部活に集中できるんだ。部活ができるのはどういふことなのか、もう一度考えて判断しなさい。」と言いました。

私は部活ができるのは当たり前と思っていた。部費として、半年に1人二千元（一年に一人四千元）払っています。しかし、コート、砂や、ボール、コート整備用のブラシなど必要な物がたくさんあります。こんなにたくさんのお金をみんなの部費だけでどうやって買っているのだろう、と思っていました。しかし、分かりました。税金のおかげです！

つまり、税金がなかったら、部費が高くなるか休部でした。税金は大切な存在です。

税金を払っている人の中には、いろいろな事情で好きなスポーツをできない人々がいます。自分がスポーツをできないのに、納めてくれた税金の一部が、私達の部活動に使われていることを忘れてはいけないと思いました。私達が大人になったとき納めた税金で、次の世代の子ども達は、いろいろなスポーツで体と心を鍛えます。その子ども達が、部活動はできて当たり前と考えていると知ったら、私は悲しくなると思います。

これと同じように、感謝の気持ちを持たずに部活動をしている私達の姿を見たら、税金を納めている大人達はどうか感じるでしょうか。自分のやりたいスポーツもできないのに税金を払っている人々は、納税という行為をばからしく感じるのではないかと思います。

納税は国民の義務ですが、気持ちよく納められるように、感謝の気持ちを込めて、部活動に参加するのも私達中学生の義務の一つだと思います。一生懸命部活をする姿を大人達が見て、「納めた税金が役にたっているな。」と納得してもらいたいです。

「納税して良かった」と「税金を納めてくれてありがとう」の二つの気持ちが一つになったら最高です。